

2021年 3月 31日

2020年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究 () ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	家政学部 児童学科 専任講師 木村 秀	
研究課題名	女子大学生の養育者効力感に及ぼす、ペアレントトレーニングの効果について	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日	

研究実績の概要 (1)

研究の目的

本研究では、実習前教育の一環として養育スキルの向上を目指し、学生に子育て支援プログラム「コモンセンスペアレンティング幼児版」を実施し、学生がこのプログラムをどのように捉え、効果を及ぼしたかを測定することが目的である。

研究の背景

近年、児童相談所への虐待通告数が毎年、過去最高を更新する社会状況が続いており、虐待された子どもを保護するだけでなく、虐待する親への治療や、子育て支援策の充実が求められる。ペアレントトレーニングは、虐待する親だけでなく、広く子育てを支援する取り組みとして実施されており、日本では精研式ペアレントトレーニング、オーストラリアで活用されている前向き子育てプログラム・トリプルPなどが、取り組まれている。また、カナダのプログラムであるノーバディーズパーフェクト、サークルオブセキュリティ、MY TREEなどの子育て支援プログラムも実施されている。

本研究で取り上げるコモンセンスペアレンティング幼児版は、アメリカの児童養護施設であるボーイズタウンが作成したプログラムで、「前向きなしつけ」を念頭に、養育スキルの向上が図られる内容で構成され、アメリカでは、虐待してしまった親への治療プログラムとしても活用されている。

コモンセンスペアレンティング幼児版で使われる訓練モデルは、「経験を通して学ぶ」ということに焦点を当てている。トレーニングの内容は、①指導②モデリング③練習④フィードバック⑤復習から構成され、参加者が、子ども達に家庭内でスキルを使う前に、安心出来る講座の中で学び、練習する機会を持つ。講座の大部分は練習を行い、実演とモデリングは、練習を更に効果的にする内容となっている。

研究実績の概要（2）

文献研究

コモンセンスペアレンティング幼児版の先行研究について把握すると同時に、コモンセンスペアレンティングに関する専門書やプログラムを展開するのに有用な絵本等を研究予算で購入し、プログラムの有効性、活用方法について検討を行った。特に、絵本は洋書であったが、子どもが学ぶ基礎的な社会スキルを読み聞かせを通して、教えることができる内容となっており、子どもが社会スキルを学ぶ上で親子の相互交流を促すよいツールとなっていることを確認できた。

調査研究

先行研究においては、プログラム受講者の養育に関する自信や育児不安の程度を測るなどの研究が実施されてきたが、本研究では、受講した学生が、養育者効力感に及ぼすペアレントトレーニングの効果をどのように捉えているかを明らかにすることを目的とする。具体的には、学生がコモンセンスペアレンティング幼児版受講後に、養育者としての効力感について、どのような変化が期待できると考えられるかを明らかにし、親になってからペアレントトレーニングを学ぶのではなく、親になる前から子どもの養育の方法を学ぶ意義について明らかにする。

方法

コモンセンスペアレンティング幼児版を受講する学生を実験群、受講しない学生を統制群とし、各群に、田坂(2003)が作成した育児自己効力感尺度と、武田(2014)が作成した「愛着－養育バランス」尺度の各項目に回答する得点の増減の変化の傾向を質問し、検証した。育児自己効力感尺度は、親としてどのくらい有能かつ効果的にふるまうことができるかという程度に関する親の期待を測る尺度である。次に、「愛着－バランス」尺度は、親の養育者としての発達を、「愛着システムから養育システムへのシフト」と捉え、その発達状況を測定する尺度である。子を持つ親でなくとも養育者としての育児に関する自己効力感を測定するために、この2つの尺度を用いて研究を実施した。

また、実験群に対しては、コモンセンスペアレンティング幼児版実施後に、プログラムの内容についての、自由記述による回答を求めた。統制群 52 名、実験群 87 名、計 139 名から回答が得られた。

結果・考察

実験群、統制群の間で、養育者自己効力感尺度、「愛着－養育バランス」尺度においては、下位尺度も含め、有意差はみられなかった。ペアレントトレーニングの受講者の方が自己効力感や愛着システムに関して得点が高くなることが期待されたが、受講の有無に関わらず、ペアレントトレーニングに対する期待を持つことができたと推測される。これは、ペアレントトレーニングを受講していなくとも、ペアレントトレーニングの重要性について学んだだけでも養育スキルの向上や良好な愛着関係の構築が期待されたと推測される。

実験群における自由記述の回答をテキストマイニングした結果では、共起ネットワーク図において、「ペアレントトレーニング」から、「学ぶ」、「養育」、「知る」、「今」という言葉との同一カテゴリーにおけるつながりが見られ、一方で別カテゴリーにある「自信」、「教育」、「わかる」、「ほめる」というカテゴリーとのつながりも明らかとなった。

ペアレントトレーニングの効果を量的に示すことの難しさがあったが、テキストマイニングによる質的データでは、「自信」や「ほめる」など、養育スキルに関する効果が示唆された。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

本研究は、新型コロナウイルス流行による影響のために、学会発表を行うことが難しかったが、研究成果を 2021 年総合文化研究所紀要において、発表予定です。